

特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」

会期：令和3年（2021）7月17日（土）～9月12日（日） 会場：奈良国立博物館 東・西新館

奈良国立博物館は、明治28年（1895）にわが国2番目の国立博物館として開館して以来、古都奈良の社寺に伝わった仏教美術の保管や展示公開につとめ、「奈良博（ならはく）」の愛称で広く親しまれてきました。約2000件にのぼる館蔵品は先史から近代まで多岐にわたりますが、とりわけ仏像、仏画、写経、仏教工芸に優れた作品が多く、まさに「仏教美術の殿堂」と呼ぶにふさわしい内容となっています。

本展では、奈良博コレクションの中から選りすぐった合計245件（うち国宝13件、重文100件）の作品によって、日本仏教美術1400年の歴史をたどっていきます。展示は全10章からなり、日本仏教黎明期の古代寺院の遺宝、密教や浄土教が生み出した仏像・仏画、神とほとけが織りなす神仏習合の造形など、各時代にわたる名品によって構成されています。「三昧（ざんまい）」とは、一つの対象に心を集中することを意味する仏教由来の言葉。熱心にほとけの姿をみると「観仏三昧（かんぶつざんまい）」と呼びます。ぜひ本展を通じて、奈良博の仏教美術コレクションの魅力を心ゆくまでご堪能下さい。



開催概要

特別展名：特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」

会 期：令和3年（2021）7月17日（土）～9月12日（日）

前期 7月17日（土）～8月15日（日）、後期 8月17日（火）～9月12日（日）

会 場：奈良国立博物館 東・西新館

休 館 日：毎週月曜日（ただし8月9日 [月・振休] は開館）

開館時間：午前9時30分～午後6時、毎週土曜日は午後7時まで

※入館は閉館の30分前まで。

※8月15日 [日]（春日大社万燈籠）は、名品展のみ午後7時まで開館します。

観覧料金：一般1,500円（1,300円）高大生1,000円（800円）小中生500円（300円）

※（）は前売料金。

※前売券の販売は5月24日（月）から7月16日（金）まで。

※本展は日時指定制ではありません。

※障害者手帳またはミライロID（スマートフォン向け障害者手帳アプリ）をお持ちの方（介護者1名を含む）、奈良博プレミアムカード会員の方（1回目及び2回目の観覧）は無料（要証明）。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ会員（学生）の方は、当日券を400円でお求めいただけます（要証明）。参加校など詳細は、奈良国立博物館公式ホームページなどでご確認ください。

※観覧当日に証明書・会員証などの提示が必要です（一般と小学生以下を除く）。

※団体料金の設定はありません。

※館内が混雑した場合は、入館を制限する場合があります。

※本展の観覧券で、名品展（なら仏像館・青銅器館）もご覧になれます。

主 催：奈良国立博物館、読売新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿

協 賛：岩谷産業、大和ハウス工業、非破壊検査

協 力：日本香堂、仏教美術協会

お問い合わせ：ハローダイヤル 050-5542-8600

公式HP : <https://narahaku-zanmai2021.jp/>

公式Twitter : @narahaku_3mai

見どころ

【1】奈良博が所蔵するエース級の国宝が勢ぞろい！



国宝 薬師如来坐像
平安時代（9世紀）

明治時代初頭まで京都東山の若王子社(にやくおうじしゃ)に伝わった。彫の深い顔立ちや、衣のひだの鋭い彫りに檀像の特色が顕著である。膝が台座からはみ出す表現や、衣文の彫り方は京都・東寺講堂諸像とよく似ている。



国宝 十一面観音像
平安時代（12世紀） 前期

平安仏画を代表する十一面観音像の名品。金箔を細く切った截(きり)金文様で華麗に装飾され、斜めを向く姿勢や体の線に沿って施される朱の隈取りなど、奈良時代に源をもつ古様な表現が認められる。かつて法隆寺の鎮守・龍田新宮に伝來した。

【2】佛教美術の教科書がココに！至高のコレクションを大公開



石の塊から彫り出した如来像。内部に経巻を納めるため、像底に大きな孔が開く。胸や背面に願主や仏師の名前を刻む。蓮台には九品九生(くぼんくじょう)（極楽往生の九段階）を意味する円輪を刻む。

重要文化財 弥勒如来坐像
(長崎県鉢形嶺経塚出土)
平安時代 延久3年（1071）
後期



三鈷杵
平安時代（12世紀）

わが国の金剛杵は平安時代後期に優美さ、力強さにおいて完成期を迎えたとされる。本品の美しくカーブする鈷や柄中央の高く突出する鬼目（丸い部分）はそれを実感させる。川端康成旧蔵。

【3】疫病退散！国宝「辟邪繪」が勢ぞろい！

天刑星



栴檀乾闥婆



神虫



鍾馗



毘沙門天



国宝 辟邪繪（部分） 平安～鎌倉時代（12世紀） 後期

疫病や災いを引き起こす鬼とたかう5人のヒーロー、「天刑星（てんけいせい）」「栴檀乾闥婆（せんだんけんだつば）」「神虫（しんちゅう）」「鍾馗（しょうき）」「毘沙門天（びしゃもんてん）」。平和を守る神々の勇ましくもユーモラスな姿を見事な筆致で描く、平安絵巻を代表する傑作です。五つの場面すべてを同時公開。（展示期間：後期）

展示構成

[第1章] ブッダの造形

仏教はいまから約2500年前、古代インドのシャカ族の王子だったゴータマ・シッダールタ（釈迦）が、この世の真理を悟ってブッダ（仏）となり、その教えを人々に説いたことにはじまります。歴史上唯一のブッダである釈迦への尊崇の高まりとともに、紀元1世紀頃にインド西北のガンダーラ地方などにおいてブッダの姿を写した仏像が初めてつくられるようになりますが、仏像のかたちは「誕生」「成道（悟りを開く）」「初転法輪（初の説法）」「涅槃（死）」など、釈迦の生涯にわたる伝記の各場面に登場する姿が典拠となりました。こうしてインドで誕生した仏教美術は、中央アジアから中国、朝鮮半島、日本へと伝播する過程で、地域に根ざした特色ある主題や造形を生み出しながら、さまざまに展開していくのです。



古代において刺繡は主要な仏像表現の一つ。この作品は説法をする釈迦如来を中心に、教えを聞く後ろ姿の女性、菩薩、僧侶、供養者などを二種類の刺繡技法で表す。仏菩薩の表現は法隆寺金堂壁画に近い。

国宝 刺繡釈迦如來說法図（部分）奈良時代または唐時代（8世紀）前期

[第2章] 飛鳥・白鳳・天平の古代寺院

日本に仏教が公式に伝わったのは、飛鳥時代、西暦552年（あるいは538年）のことといわれます。大陸から渡って来た人々が初めてもたらした仏像の金色に輝く神々しい姿は「異国の神」として崇拜されました。これ以降、飛鳥の地（奈良県明日香村）を中心に本格的な寺院の造営が始まり、7世紀後半の白鳳期になると、中国・初唐期の仏教文化から大きな影響を受けた寺院が営まれるようになります。和銅元年（710）に都が平城京、すなわちここ奈良の地に定められると、遣唐使がもたらした高度な仏教知識と最新の技術を駆使した天平文化が花開き、国家仏教を支える巨大寺院が次々と建立されました。本章ではこうした古代寺院の姿を、かつて堂塔を飾った古瓦や壇佛、信仰の核となった金銅仏をはじめとする仏像、寺院の実態を伝える文書類によって概観します。



奈良時代から平安時代に流行した、素焼きの塔。相輪、屋根、壁を別々に焼成し、組み上げている。第一層の内陣には小仏像が表される。木造の五重塔を模倣した細かな表現が目を引く。浜名湖を望む山中で発見された。

瓦塔（静岡県浜松市出土） 奈良～平安時代（8～9世紀）

[第3章] 写経に込められた祈り

釈迦が説いた教えを弟子たちが書き記した聖典である「ストラ」は、中国に伝わると漢文に翻訳されて「經」「經典」と呼ばれ、東アジア各地に広まりました。仏教の伝来とともに日本に漢訳經典がもたらされると、これをもとに經典の書写が国内でも行われるようになります。特に奈良時代には、國家事業として官立の写経所において膨大な数の写経が行われ、唐經を手本とした端正な文字の経巻が各所に備えられました。平安時代になると、貴族たちの間で個人的な祈願成就を目的とする写経が流行し、文字や料紙を美しく飾る装飾経も盛んに製作されるようになります。またこの時代には釈迦の教えがすたれる末法の世の到来が信じられたことから、書写した經典を後世に伝えるためタイムカプセルのように土中に埋納する経塚が各地に営まれ、かたく丈夫な素材に経文を刻む瓦経などもつくられました。



この経を敬えば國が護られると説く經典。天平13年（741）、聖武天皇は全国に国分寺を建立し、塔に金字最勝王經を安置するよう命じた。本品は備後国分寺のものとされる。奈良時代写経を代表する名品。

国宝 金光明最勝王經 卷第一（国分寺經）（部分）奈良時代（8世紀） 図版の場面の卷第一展示は前期

[第4章] 密教の聖教とみほとけ

平安時代初期、新しい仏法を求めて中国にわたった最澄や空海をはじめとする入唐僧によって、本格的な密教が初めて日本に伝えられました。呪術的な祈りによって人々の願いをかなえる密教では、さまざまな祈願を目的とする「修法（しゅほう）」と呼ばれる実践的な儀礼を行います。特に真言宗や天台宗の密教寺院には、修法の本尊や次第内容に関する口伝や規則などを記した文書・記録である「聖教」が脈々と継承されてきました。また、空海の言葉に「密教は奥深いため、文章のみで真理を伝えることは難しいので、図画を用いてこれを示すべきである」とあるとおり、密教では曼荼羅などの画像を本尊として重視します。このため、多くの顔や手をもつ菩薩や、怒りをあらわにする明王など、密教独自のほとけを表した仏像・仏画の優品が数多く残されたのです。



如意宝珠や輪宝（りんぱう）などを持つ、六臂（ろっぴ）の如意輪觀音。カヤ材の一木造で、重量感のある体つきをしている。連なった眉に切れ長の目をしたエキゾチックな顔立ちで、外来の仏像の影響が感じられる。

重要文化財 如意輪觀音菩薩坐像 平安時代（9～10世紀）

[第5章] 仏教儀礼の莊厳

6世紀の半ばに日本に仏教が伝來した当初、大陸から仏像や經典とともに「幡」「蓋」が一緒にもたらされたことが示すとおり、仏の礼拝供養や經典の読誦などを行う仏教儀礼において、天蓋・幡・華鬘などの莊嚴具で仏堂内を飾ることが重視されます。またこうした法会では、僧侶が打ち鳴らす磬などの梵音具、僧侶が威儀を整えるために手にする如意などの僧具も欠かせません。さらに修法や加持祈祷などの実践的な儀礼を行う密教では、行者に特殊な力を授けるとされる法具類が特に重視されました。例えば、鈸と呼ばれる角のような尖りがつく金剛杵など、古代インドの武器に由来するというその神秘的な造形は、これを手にする行者の身を護り、修法の成就を助けるものとされたのです。本章ではこのように儀礼空間を莊嚴してきた仏教工芸の魅力を紹介します。



華鬘は堂内を飾る莊嚴具で、柱や長押などに懸けられる。これは牛皮製の華鬘で、極楽浄土に住む人面の鳥・迦陵頻伽（かりょうびんが）や空想上の花・宝相華の文様を透彫と彩色で表した華麗な品。東寺（京都）の伝来。

国宝 牛皮華鬘 平安時代（11世紀）

[第6章] 地獄極楽と淨土教の美術

この世を離れるときに、阿弥陀如來の来迎を受け、極楽浄土へ往生するという願いは、特に平安時代中期以降、日本人の仏教信仰の中核を占めるようになります。天台宗の高僧・源信（942～1017）が著した『往生要集』には、極楽浄土の素晴らしい光景とともに、生前の行いによって輪廻するという六つの世界（六道）のうち、とりわけ恐怖に満ちた地獄の光景が詳細に記されています。人々に死後のイメージを具体的に提示するこの書物は、長らく阿弥陀来迎図や阿弥陀浄土曼荼羅、地獄絵など、淨土教美術を豊かに生み出す源泉であり続けました。奈良博を代表する名品である地獄草紙（157）と辟邪絵（158）は、ともに後白河法皇のコレクションだった六道絵巻に含まれていた可能性があり、平安びとの心をとらえた淨土教美術のすがたを今に伝えています。



地獄は、人間が死後に生まれ変わる可能性のある六つの世界（六道）の一つで、生前に重い罪を犯した者が墮ちる。本図は様々な地獄を描く絵巻の名品で、鷦地獄など七つの地獄が描かれている。

国宝 地獄草紙（部分） 平安～鎌倉時代（12世紀） 前期

[第7章] 神と仏が織りなす美

日本古来の神々に対する信仰は、長らく日本人の宗教観念の基層を形づくってきました。しかし6世紀に大陸から仏教が伝来すると、神と仏は互いに影響しあい、融合しながら、神仏習合という新たな信仰世界を生み出します。東大寺の大仏造立に際して八幡神が助力したことに象徴されるとおり、神仏習合は奈良時代の国家仏教形成とともに著しく進展し、この頃から仏像の影響を受けながら、神の姿を造形化した神像も盛んに制作されるようになりました。また中世には、「本源的な存在である仏（本地）が、人々を救うため仮にこの世に現した姿が日本の神（垂迹）である」という信仰が急速に広まっていきます。この「本地垂迹説」にもとづいて、神社景観の中に祭神の本来の姿とされた仏・菩薩を描く宮曼荼羅など、垂迹美術がさまざまに生み出されていったのです。



春日信仰と釈迦信仰が結びついた作品。春日社の武甕槌命の本地（本当の姿）は釈迦如来とされる。この作品では、武甕槌命は釈迦の遺骨である舍利で表され、神の乗り物である鹿の背にのっている。

春日神鹿舍利厨子（部分） 鎌倉～南北朝時代（14世紀）

[第8章] 高僧のすがた

インド、中国、日本各地に仏教を伝え広めた高僧たちへの尊敬は、その容姿を礼拝・供養の対象とする肖像を数多く生み出しました。特に仏教の教えを集成・発展させ一宗一派を開いた祖師の肖像は、その宗派に所属する弟子たちにより重要な礼拝対象として継承され、法脈を正統に受け継いだことの証とされたのです。例えば鎌倉時代に新しく中国から伝わった禅宗では、師から弟子への仏法の継承がひときわ重んじられ、伝法の証明として、師が自らの肖像画である頂相に自筆の贊文を記して弟子に与えることが行われました。また、高僧が自ら筆を執った書状や法語などの墨跡が、筆者の精神や人間性を体現するものとして尊重され、後世にはそれ自体が鑑賞の対象として珍重されるようになります。



臨済宗大徳寺派の禅僧・一休宗純（1394～1481）の現存最古の肖像画。50歳時の自贊をもつ。傍らの大きな朱塗鞘の太刀は、実は木刀であり、外面を飾ることにしか興味のない世相を批判している。

重要文化財 一休宗純像 室町時代 文安5年（1447） 後期

[第9章] 南都ゆかりの仏教美術

奈良時代に都が置かれた奈良の地は、平安京に都が移った後も仏教文化の中心であり続け、中世には北の京都に対して南都と呼ばれるようになります。特に東大寺、興福寺、春日大社に隣接して奈良博が立地するこの場所は、まさに南都の仏教文化が行き交った中心に位置しています。明治維新後の神仏分離政策などの影響により、流出の危機に瀕していた奈良の社寺の文化財を保存・公開するため、明治28年（1895）にこの地に奈良博（帝国奈良博物館）が開館したことは決して偶然ではありません。奈良博所蔵品の多くは戦後に収集されたものですが、こうした歴史的経緯もあって、東大寺や興福寺、法隆寺など南都の社寺にゆかりの深い仏教美術がコレクションの中核を占めているのです。



像内に納めた経典と台座裏の墨書から、制作年と作者、東大寺大仏殿再建に關係する木材を用いたことがわかる。全体を小作りにまとめた作風や、くっきりと刻む衣に仏師快成の持ち味が發揮される。奈良・興福寺伝来。

重要文化財 愛染明王坐像 鎌倉時代 建長8年（1256）

[第10章] 奈良博コレクション三昧

明治29年（1896）に受け入れた100件をこえる文化財の模写・模造類が、前年に開館したばかりの奈良博最初期の主要なコレクションとなりました。その多くを占める仏教絵画の模写は、横山大観や菱田春草など、当時開校したばかりの東京美術学校（現在の東京藝術大学）で学んだ新進気鋭の画家たちの手によるものです。仏教美術に注目が集まる奈良博コレクションですが、125年にわたる歴史の中で、古代人の生活をいきいきと伝える戸籍や写経所職員が書いた休暇届などの文字史料、地元奈良で代々家業を受け継ぐ漆芸家の優品、奈良の古墳から出土した甲冑や鏡など、時代もジャンルも多岐にわたる興味深い作品を収集してきました。本展覧会の最後となる本章で、知られざる奈良博コレクションの魅力をご堪能ください。



秋草の花が咲き乱れる武藏野の景観を描く。西洋画から学んだ空間表現と、琳派などの古画から学んだ装飾性が融合した、横山大観（1868～1958）の初期の代表作。遠景の富士山は大観が描いた現存最古のもの。

武藏野図 横山大観筆 明治28年（1895） 後期

奈良博公式キャラクター ざんまいずデビュー！！

奈良博の作品をモデルにしたキャラクター5匹も登場！

本展で「ざんまいず」として正式にデビューします！

モチーフになった作品を全て展示します。



報道に関するお問合せ

特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」広報事務局（ネネラコ内）宛

TEL : 06-6225-7885 FAX : 06-7635-7587 E-mail : narahaku-zanmai@nenelaco.com

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル

特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」 広報用画像借用 申込書

本展の展示作品等の画像を、広報素材としてご提供いたします。

返信用紙に必要事項をご記入のうえ、本展事務局までご返信ください。

広報画像申込フォーム（WEB） <https://forms.gle/6D9uV6wb1UMbMAXS6>



[画像使用全般に関しての注意]

- 本展広報目的での使用に限ります（会期終了まで）。使用後は、データの破棄をお願いいたします。
- 特別展名、会期、会場、画像・クレジットは必ず記載してください。
- 転載、再放送など、二次使用される場合は別途申請をお願いいたします。
なお、展覧会終了後の二次使用はできません。
- Webサイトに掲載する場合は必ずコピーガードを施してください。
- 基本情報、画像使用などの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階のものを広報事務局にお送りください。
- 掲載・放送後は、必ず掲載紙（誌）、同録DVDを広報事務局までお送りください。

<送付先>

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル

特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」広報事務局（ネネラコ内）宛

TEL：06-6225-7885 FAX：06-7635-7587 E-mail：[nahaku-zanmai@nenelaco.com](mailto:narahaku-zanmai@nenelaco.com)

【広報画像クレジット一覧】※クレジットは省略せずに、全て記載くださいますようお願いいたします。

番号	クレジット [指定・作品名・時代・展示替]
1	国宝 刺繡釈迦如來說法図（部分） 奈良時代または唐時代（8世紀） 前期
2	国宝 金光明最勝王経 卷第一（国分寺経）（部分） 奈良時代（8世紀） 図版の場面の卷第一展示は前期
3	重要文化財 弥勒如来坐像（長崎県鉢形嶺経塚出土） 平安時代 延久3年（1071） 後期
4	獅子 鎌倉時代（13世紀） 後期
5	三钴杵 平安時代（12世紀） 通期
6	国宝 辟邪絵のうち 毘沙門天像（部分） 平安～鎌倉時代（12世紀） 後期
7	国宝 薬師如来坐像 平安時代（9世紀） 通期
8	伽藍神立像 鎌倉時代（13世紀） 通期
9	重要文化財 愛染明王坐像 鎌倉時代 建長8年（1256） 通期
10	国宝 十一面觀音像 平安時代（12世紀） 前期
11	メインビジュアル ※クレジット不要

報道に関するお問合せ

特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」広報事務局（ネネラコ内）宛

TEL：06-6225-7885 FAX：06-7635-7587 E-mail：[nahaku-zanmai@nenelaco.com](mailto:narahaku-zanmai@nenelaco.com)

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル

特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」

広報用画像借用 申込書

【送付先】特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」広報事務局（ネネラコ内）宛

広報画像申込フォーム（WEB） <https://forms.gle/6D9uV6wb1UMbMAXS6>

FAX : 06-7635-7587 E-mail : narahaku-zanmai@nenelaco.com



[広報画像一覧] ご希望の画像に をお願ひいたします。

■広報画像をご使用の際は、別紙に記載の【画像使用全般に関する注意】を必ずご確認ください。

[1] <input type="checkbox"/>	[2] <input type="checkbox"/>	[3] <input type="checkbox"/>
[4] <input type="checkbox"/>	[5] <input type="checkbox"/>	[6] <input type="checkbox"/>
[7] <input type="checkbox"/>	[8] <input type="checkbox"/>	[9] <input type="checkbox"/>
[10] <input type="checkbox"/>	[11] <input type="checkbox"/>	

貴社名:

貴媒体名:

WEB媒体の場合はURLをご記載ください

掲載予定: 年 月 日 (発売・月号・放送) / 発行部数: (部 · PV)

ご担当者名:

TEL:

FAX:

E-mail:

読者プレゼントを希望する 作品画像1点以上の掲載が条件です。本展招待券2組4名様分をご提供します。
[招待券送付先]